



No. 141

平成30年3月1日 発行
吾妻教育事務所
吾妻郡町村教育委員会連絡協議会

雰囲気は人をつくる

高山村教育委員会 教育長 山口 廣



昨年文化勲章を受章した、東京理科大学学長の藤嶋昭先生の講演を数年前に2回ほど聞く機会がありました。ご存知の方も多いと思いますが藤嶋先生は、光触媒の権威で、酸化チタン光触媒は、空気清浄器や自動車のサイドミラー、さらに、ルーブル美術館や国際宇宙ステーション、日光東照宮の「漆プロジェクト」など多くの所で利用されています。

講演では、研究がうまくいった理由について話してくれました。その内容がすごく印象に残り、いろいろな機会で紹介しています。

「研究を成功させるのは、研究費のあるなしでなく、大事なことは人です。さらに大事なものは集団の雰囲気であると思っています。いい雰囲気をつくることができるかどうか。これが全てであると思っています。」藤嶋先生は「雰囲気は人をつくる」と話してくれました。

イタリアの小さな町フィレンツェでダ・ヴィンチやミケランジェロなどの芸術家が多く誕生したのも町の雰囲気であり、明治維新のころの薩摩や長州が大きな働きをしたのも藩の雰囲気がそうさせたのではないかと話していました。

学校の職員室も学級も同じではないかと思っています。私の経験からも、いかによい雰囲気をつくるかが、よい教育につながると 생각합니다。皆さんの経験ではどうでしょうか。

今年は、雰囲気を意識しながら「西郷どん」を見てみようと思います。

「平成29年度 学校訪問のまとめ」 【学校教育係】

今年度お願いしてきた以下の6点（太字の項立て12点）について、成果や課題をまとめました。各園・学校の次年度の指導に生かしていただきたいと思っています。

○知識・技能を活用する力を伸ばすための取組の充実

①「伸ばしたい資質・能力」の明確化から「考えさせること」が決まる

計画訪問時の1単元（1授業）を基にした分析ではありますが、指導案からは伸ばしたい資質・能力が具体的に記述されるようになってきています。同時に、本時のねらいも「～について話し合う活動を通して、～を理解する」といったように、ゴールと中心となる学習活動が明確に示されるようになってきました。

②児童生徒が主体的に取り組むための支援を充実させる

児童生徒が主体的に課題解決に取り組む時間は多くの授業で確保されていました。また、自分なりの考えを一人一人がもてるよう、導入の1、2分間に既習事項の復習を行ったり、個別に必要な支援・助言を行ったりする配慮も見受けられました。

一方課題として、学級全体で考えを伝え合い深める際にやや教師主導になってしまう場面も見られました。より主体的な学習とするために以下の点を意識していただきたいと思っています。

□友達の発言を自分の考えと比較させながら聞かせる。

□一人の発言に対する反応を見取り、付け足しや反対の意見を促す。

□児童生徒に整理させる。（発言を基に教師が板書することも含む）

また、班活動を設定しているものの、目的が明確でない授業も見受けられました。上記の①の他に、“ねらい”のどこまでを班別で追究させ、その後どのように全体で練り上げるのかを明確にしておくことが大切です。これにより、班活動や全体追究に取り組む児童生徒に適切な支援が可能となり、その結果、自分で（自分たちで）解決できた喜びを味わわせることができるようになります。